

輝く未来へ今、袋井が動き出す！～挑戦するDNAを呼び起こせ～

発行日：令和元年8月1日

スマート農業 身近な農場で 機器の実演会



J A 遠州中央が初開催

日：2019.7.30 場：袋井市下山梨地内

農業用ドローンやロボットトラクターを紹介！



2019.7.31 静岡新聞（朝刊）



自動運転で農地を耕すトラクター＝袋井市下山梨

スマート農業を推進
 J A 遠州中央が実演会 袋井

情報通信技術（ICT）を活用したスマート農業の実演会が30日、袋井市下山梨の水田で開かれた。農業機械の効率化や合理化で農家の生産規模拡大を後押しするため、J A 遠州中央が初めて実施した。農業機械の性能を説明。農業に見立てた水を農場に散布し、高度維持や自動ターンの機能などを実演した。

機械メーカーのコブタ、ヤンマー、井関農機が、GPSで位置情報取得して自動運転できるトラクターを紹介。対人対物センサーの機能なども実際に作動させた。ヤンマーは、安全性能もアピールした。ヤンマーは、除草作業用のドローンの性能を説明。農業に見立てた水を農場に散布し、高度維持や自動ターンの機能などを実演した。

同J A が同日開いた生産者組織協議会（山田宏会長）の一環で、生産者やJ A 関係者ら約100人が参加した。山田会長は機械の性能の高さを評価しつつ、「安全性や作業の確実性の向上に期待したい」と話した。

作業の確実性や費用対効果などの検証や課題はあるが、技術の進歩を身近で見ることができたことは良かった。後継者不足の解消など農業が大きく変わる可能性を感じた。



見学した生産者の声